



# いちのみや

一宮小学校だより 第2号

一宮町立一宮小学校

一宮町一宮3351

文責 校長 永野 真仁

## 令和5年度一宮小学校経営方針

### I 学校経営の方針

教育目標の達成に向けて、全職員が一丸となって魅力ある教育活動を展開し、成長する喜びを実感させ、本気で頑張る児童を育てる。

- 1 夢の実現に向け、高い志を持ち、本気で頑張る子どもを育てる。
- 2 子どもたちの夢の実現を支えるよりよい教育環境、教育基盤の充実を図る。

### II 学校教育目標

「心身ともに健康で 人間性豊かな 実践力のある子どもの育成」

#### 1 目指す児童像

～笑顔あふれ、本気で頑張る一宮っ子～

- (1) きまりを守りやさしくできる子ども (笑顔)
- (2) 進んであいさつができる子ども (あいさつ)
- (3) いっしょうけんめいに勉強する子ども (本気)

#### 2 目指す教師像

～チーム一宮～

- (1) 子どもを愛し、子どもとともに歩む教師
- (2) 使命感と責任感にあふれ、わかる授業、楽しい授業を行う教師
- (3) 協調して仕事に取り組み、率先垂範する教師

#### 3 目指す学校像

～みんなの誇り一宮小学校～

- (1) 安全で安らぎのある学校
- (2) 子どものよさと可能性を伸ばす学校
- (3) 苦手意識をもたせず、基礎学力を身に付ける学校

### III 経営の具体的な方策

#### 1 全職員の経営参画による学校経営の推進

- (1) 学年の経営の企画・点検・評価・改善のサイクルで、よりよい実践を目指す。
- (2) 校務分掌担当者の役割を明確にして、学校全体で取り組む推進体制を構築する。
- (3) 学年枠を超え、職員のチームワークを高めつつ学校運営の改善を図る。

#### 2 生徒指導・教育相談の充実

- (1) 個々の児童のよい点を認め、励まし、ほめる

ことを心がける。

- (2) 休み時間等での児童との活動を通して、積極的に心の交流や児童理解に努める。
- (3) 生徒指導、教育相談、特別支援教育のシステム一元化を図る。
- (4) 不登校、不登校傾向の児童に対しての指導体制の確立を図るとともに、関係機関等との連携を図り、支援の充実を図る。

#### 3 学習指導の質的向上

- (1) 学力向上を目指し、教員の専門性を最大限に生かした授業交換を推進するため、学年内のみならず、学年を超えた授業交換を積極的に行う。
- (2) アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を推進する。
- (3) 外国語・外国語活動の充実を図る。
- (4) 基礎的・基本的事項の確実な定着と、わかる授業、楽しい授業に努める。
- (5) 学習規律（特に聞く態度）、学習習慣の育成を図る。
- (6) 教科学習、家庭学習、ドリル・読書活動の連携を図る。

#### 4 道徳教育の充実

- (1) 「考え、議論する道徳」の授業を工夫改善し、道徳教育の充実を図る。
- (2) いじめを絶対に許さない心と態度を育成するために、効果的な指導を工夫する。
- (3) 道徳教育映像教材等の活用を通して、道徳の時間の一層の充実に努める。

#### 5 特別活動の充実

- (1) 心豊かで思いやりのある児童の育成を図るため、計画的に異年齢集団活動を取り入れる。
- (2) 集団活動を通して、自己の生き方についての考えを深め、集団の中で自己を生かす能力を育成する。

#### 6 体育・健康・安全教育の推進

- (1) 命の大切さを考える防災教育の充実を図る。
- (2) 危険回避能力を高める安全指導の充実と計画的な安全点検を図る。「自分の命は自分で守る」
- (3) 体力向上と心身の健康保持を目指した継続した体力づくりを実施する。
- (4) 健康に関する諸課題への適切な対応のための

家庭地域との連携を図る。

- (5) 食育を重視した計画的な給食指導に努める。
- (6) 感染症の理解と予防に努め、新しい学校生活様式の徹底を図る。

## 7 特別支援教育の充実と推進

- (1) 通常学級における特別支援教育について、全職員で共通理解を深め、学校全体での指導体制を充実する。
- (2) 特別支援学校等と連携しながら、インクルーシブ教育システムの構築を図る。
- (3) 外部機関と連携した支援体制の工夫をする。

## 8 情報教育の推進と学校図書館の効果的活用

- (1) **タブレットの活用の推進を図る。**  
(プログラミング教育・情報モラル教育)
- (2) 教員のICT活用能力及び指導力向上のための研修の充実を図る。
- (3) 読み聞かせや調べ学習などの読書活動を充実させ、自ら進んで読書に親しむ意欲と態度を育てる。

## 9 家庭・地域等との連携

- (1) 積極的に教育ビジョンを発信し、目標とする児童像を家庭・地域との共有を図る。
- (2) **ふるさと教育を推進し郷土愛を育む。**  
(プロジェクト型学習、上総おどり、郷土の偉人等)
- (3) 保・小・中・高・特別支援学校と連携し、交流活動等を推進する。
- (4) 児童の安全確保のための連携を図る。  
(PTA、登校ボランティア等)
- (5) ホームページ等の充実を目指し、本校教育活動の積極的な情報発信をする。

## 10 研究や研修の充実

- (1) 教員としての職責を自覚し、幅広い視野と人間性を身に付けるために日頃から研究と修養に取り組む。
- (2) 組織的・計画的に、校内研究、校内研修を推進し、若年層研修の充実を図る。  
(千葉県・千葉市教員等育成指標の積極的な活用)
- (3) OJTのみならず、県総合教育センター等の研修への積極的な参加を促す。

## 11 教育的環境の整備

- (1) 礼儀正しく、明るく楽しい環境づくりの充実を目指す。(あいさつ運動とその日常化)
- (2) 清掃活動の徹底を図り、校舎内外の美化に努める。(黙働清掃)

## 学力向上を目指します！

本校の喫緊の課題は学力向上です！

それも、実効性のある方策を考えていきます。

本年度より、学校全体の研究教科を「算数」とし、子どもたちにとって「わかる喜び」や「学ぶ楽しさ」が味わえるような指導の工夫について仮説を立て、授業実践による検証を重ねていきます。そのことにより、教員の確実な指導力向上を目指していきます。

また、中学・高校の教員免許をもつ教員や、長期研修生として大学等で専門性を高めた経験のある教員も多くいます。そんな、個々の教員の専門性を最大限に生かした授業交換（専科授業等）を積極的に取り入れていきます。

以前、全国学力・学習状況調査の「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか？」との設問に、「4時間以上」との回答が約3割、

「3時間以上4時間未満」が約2割、実に学年児童の半数が平日に3時間以上ゲームをしているという驚きの結果について、「学校だより」でお知らせをしたことがありました。

学校から帰った後、夕食や入浴の時間以外に4時間以上もゲームに割くということは、睡眠時間を削る以外に時間の確保が困難でしょう。事実、30年前に比べて、日本の子どもの平均就寝時間が1.5時間も遅くなっているそうです。

また、スマホやパソコン画面から放出される多量の「ブルーライト」による悪影響は、網膜へのダメージのみならず、睡眠の質の低下や、不眠によるストレス増加や精神状態が不安定になるなど甚大なものです。

ゲーム時間に制限を設けるなど、ご家庭の協力により、その後の数値に一定の改善が見られたものの、まだまだゲーム依存の傾向があります。学力向上や、学習の習慣化には、これまでの生活習慣の見直しが必須です。

まずは、各学年の生活実態の把握から始めますので、その際は調査にご協力をお願いします。

今こそ、「脱ゲーム依存!」「早寝、早起き、朝ごはん」の習慣化について、ご家庭でもお考えいただけたら幸いです。